

【特別講演Ⅱ】

歯科分野の発展と未来展望

— 歯科治療における術者中心のシステムの構築 —

石田 雅司¹⁾, Daryl R. Beach²⁾, 小佐々晴夫³⁾¹⁾NPO法人 pdp 理事長, ²⁾NPO法人 GEPEC, ³⁾小佐々歯科医院

【はじめに】

歯科治療の大半は開口部が4~5cmの狭い口腔内を対象とし長さで0.2mm角度で3度の精度で正確さが求められる作業である。このような厳しい条件にも関わらず術者である歯科医師の身体の使い方には十分な検討がなされないまま従来治療対象である口腔に無理に術者が合わせる方法がそのまま踏襲されてきた。精密正確な作業には最適な指先および前腕のコントロール更には作業点を正確に見る視線が必要であり、そのためには身体のバランスの取れた姿勢が重要である。

【目的と方法】

歯科医として社会に貢献するためには職業としての目標設定が必要である。治療の必要性のない絶対的健康を「0」と位置づけこれを「0 concept」と呼びこの状態を確立することを究極の目標と設定した。日々の診療に専門的知識と技量を傾注することは当然であるがその先にある大局的な目標を自覚すれば更に職業としての自覚と誇りを持てる。

目標設定が確立するとその上で日々の診療をその目的にあった形にする必要がある。従来治療対象である口腔に無理に術者が姿勢を合わせバランスの取れない状態での治療を余儀なくされてきた。そこで治療のための術者の右手人差し指を基準点(0 point)とした。次にバランスの取れた姿勢ポジションを術者自身の位置やバランスを知覚する固有感覚から演繹して体得する方法(pd = Proprioceptive Derivation)を確立した。

【結果】

セミナーを通じて大学や多くの開業歯科医の医療活動に貢献してきた。肉体的疲労からの開放とともに精密正確な治療を継続出来るようになった。これらの体系化は日本在住の米国人歯科医であるD. R. Beachによりなされ1965年頃から国内でセミナーを通じて大学や開業医に受け入れられ近年更にはWHOを始め世界各国の大学に取り入れられている。

【キーワード】 0 concept, 0 point, pd